

日本プライマリ・ケア連合学会

第18回九州支部総会・学術大会

withコロナ時代の まちづくりとひとづくり

開催形式：宮崎県医師会館 + Web会場

<https://pcare18k.secand.net>

会期

2024年1月20日(土)・21日(日)

会場

宮崎県医師会館

宮崎市和知川原1丁目101

大会長

吉村 学

宮崎大学 医学部 地域医療・総合診療医学講座 教授
日本プライマリ・ケア連合学会宮崎県支部長

参加登録締切

2023年12月25日

参加費

医師・歯科医師・薬剤師 5000円

その他の医療職 3000円

非医療職 1000円

初期研修医・学生 無料

講演

「隠岐での実践、そして総合診療医育成」白石 吉彦 先生（島根大学医学部附属病院総合診療医センター長）

「医療/介護崩壊を起こさない仕組み」高山 義浩 先生（沖縄県立中部病院 感染症内科・地域ケア科）

「総合診療（家庭医療）を軸とした地域医療の展開」吉村 学（宮崎大学医学部 地域医療・総合診療医学講座）

シンポジウム

「with コロナ時代のまちづくり」「with コロナ時代のひとづくり」

ワークショップ

「県立宮崎病院総合診療科 case conference」「ポートフォリオフェスティバル」

「この褥瘡、どうしましょう」「キャリアカフェ」

学生企画：「退院前カンファレンスを体験してみよう！」

一般演題発表：プライマリ・ケアに携わる職種の方々による「研究」「症例報告」「活動報告」

★参加登録は下記よりお願いいたします！

<https://pcare18k.secand.net/sanka.html>

※託児所を利用される場合には、12月25日までに登録をお願いいたします。



★内容紹介★

シンポジウム① With コロナ時代のまちづくり

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミックにおいては、外出やイベントの自粛、休業や休校など、様々な制限が必要とされた時期もありました。そのような制約の中で、地域における伝統的なイベントやコミュニティ活動が中止を余儀なくされたり、新規の町おこし活動に制限がかかったりしたこともあるかもしれません。介護を要する高齢者や生活困窮や障害により支援が必要な人々に、支援・サービスが届きにくくなってしまったこともあったでしょう。

このシンポジウムでは、住民や子どもたちを巻き込んだまちづくり活動や、ホームホスピス活動、医療的ケア児を支える仕組みや、地域のかかりつけ医によるアウトリーチ活動などを4人のパネリストにより報告いただきます。様々な制約の中でも地道に活動を継続し、新たに生まれたつながりや文化・技術を活かしながら、プライマリ・ケアの現場で「まちづくり」のために何ができるかをパネリストとともに深めていくことを目的とします。

シンポジウム② With コロナ時代のひとづくり

団塊世代が後期高齢者となる2025年が目前に迫り、これから2040年問題に向けて医療・介護のさらなる充実・効率化が必要となっています。多疾患併存・通院困難の高齢者の需要が高まり、在宅医療から入院までのシームレスな医療体制や、医療・介護の密な連携は今後ますます重要となることは疑うべくもありません。

専門職もこれまで以上に多職種連携志向が求められ、専門性だけでなく、他職種と連携を行いながら、患者中心の医療を実現できる人材育成が必要となります。医師、薬剤師、看護師教育の立場からの報告に加えて、社会を支える将来世代の課題として、思春期・ウイメンズヘルスの観点からも問題提起を行います。

自らの専門職だけでなく、連携を行う他職種の教育にも積極的に関わっていくことが望まれるのではないのでしょうか。本シンポジウムを通して、育てたい人材像についてお互いの理解を深め、プライマリ・ケアの現場を担う次世代の教育について議論していきたいと考えています。

ワークショップ① 県立宮崎病院総合診療科 case conference

医師は皆、“正しい診断をしたい”という思いを持っていると思いますが、日々の診療の中でそれがいかに困難であるかは誰も実感したことがあるのではないのでしょうか。その要因の一つには「最適な臨床推論のやり方」というのが確立していない(できないのかもしれませんが)という点が挙げられます。

現在ではAIを利用した様々な診断サポートツールが普及し、利用している方も多いと思いますが、それを効果的に活用するためにも医師として最低限の診断能力を持ち合わせる必要があります。どのように学習したら、診断能力が効率的に向上するのかという点に関しても、確たるエビデンスはないようです。そうすると、他人の経験した症例を基に疑似体験を重ねながら、未知の症例に触れたり、他の医師の思考過程を知ることによって自分の知識を増やしていくというような学習を継続することが医師には必要なのだと思います。

今回この場をお借りして、県立宮崎病院 総合診療科で症例検討を行います。ぜひご参加いただき、ご自身の知識や思考過程を共有したり、また他人の思考過程を知ったりすることで、今後の診療への糧としていただければ幸いです。

ワークショップ② ポートフォリオフェスティバル

日本プライマリ・ケア連合学会九州支部では、KOPe(Kyusyu Okinawa Portfolio e-learning)を通じて、各県の専攻医、指導医が所属する専門医プログラムを越えてオンラインで交流しながら、ポートフォリオ作成の支援を行ってきました。今回、ポートフォリオ発表会を開催し、異なる所属プログラムから提出された4例の Showcase ポートフォリオを紹介し、プログラムの垣根を越えたポートフォリオの学びの共有と交流の場を創出します。

専攻医にとっては、ポートフォリオの完成像を提示することでポートフォリオ作成の支援につながるように、指導医にとっても指導の質の課題を確認する機会となるように、また、学生や多職種にとっては、ポートフォリオに触れ、総合診療に対する理解を深めていただく機会になれば幸いです。

ワークショップ③ 「この褥瘡、どうしましょう」

プライマリ・ケアの現場では様々な場面で多職種連携が必要となりますが、本ワークショップでは“褥瘡”をテーマに決めました。褥瘡は患者の生命予後やQOLに大きく影響する疾患であり、その予防や治療には医療職、介護職、患者家族といった多職種連携が不可欠です。症例をベースに多職種が集まったグループで相談し、どのような連携や協力ができるのか、理解を深めることを目標としています。

皮膚科医師・薬剤師によるレクチャーでプライマリ・ケアの現場に必要な最新の褥瘡に関する知識のアップデートを行った上で、社会背景や家族背景が複雑な症例についてグループごとに話し合い、“現実的な落とし所”を考えていきます。医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士といった様々な職種からみた褥瘡管理についてコンパクトに学べる場となっておりますので、病院関係者、在宅医療に関わる方、施設介護に関わる方など褥瘡に遭遇する全ての方とこのワークショップを通じてプライマリ・ケアの現場における褥瘡の扱い方について共有できれば幸いです。

ワークショップ④ 「キャリアカフェ」

毎年学術集会で大人気の企画であるキャリア Café が宮崎出張を行います！令和の時代、キャリアは非常に多様性を帯びています。医療系職種の働き方も、もはや5年前とはまったく違う景色が見えています。あなたは、その景色に気づいていますか？

薬剤師、開業医、専攻医…様々な立場でのキャリアの悩み、ここで様々な立場の人と話をしてみませんか？

ここにしかない出会いと発見が、必ずあります！お気軽にお立ち寄り下さい！